

「紫の旗ゆくところ	何処にか我敵あらん」
～88期生から128期の生徒諸君へ	
校長	久保田範夫
今年4月の3学年通信は、次のように書き	
出しました。「安積で学ぶ君たちは今、	
"Route to the top"(トッパへの道筋)を辿っ	
ている」そして、「トッパを目指して、時には	
後退し、時には横道にそれながらも、自分	
が志す「高み」にいつか辿り着こうと着実な	
歩みを続けている人こそが、"the top"に値	
するのだ、と私は考えている」と続けました。	
着実な歩みを続ける君たちは、約100日後	
にセンター試験に臨みます。私が大学に入っ	
た昭和50(1975)年当時は、いきなり大学の	
個別試験を受ける形でした(旧国立I期校は	
3月3日頃が試験日なので、私立を受けない	
生徒は、ここで初めて大学受験。だから学校	
祭も11月初旬にできたのかも…)。また、カ	
リキュラムも必ずしも受験に特化したもので	
はなく、例えば1年で地理、2年で世界史と	

倫社、3年で日本史・世界史と政経、という	
ように全科目を履修し、文型でも物理と数Ⅲ	
(!!)をやりました。社会全科目や数Ⅲの微積	
分は、当時は大変だったはずですが、今振り	
返ってみるとやって良かったのかなと思いま	
す。話が横道にそれましたが、私は3年の秋	
以降、受験勉強に行き詰まった時には、受験	
と関係ない科目の教科書或いは漱石の短編	
(「倫敦塔」や「夢十夜」等)を読んだりし	
ていた記憶があります。君たちも、切り替え	
のきっかけになるものを何か持っているはず	
です。それと上手につきあいながら、そして、	
志望校に対する熱い思いを最後まで持ち続け	
ていれば、道は自ずと志望校へと通じます。	
私も88期なので、1・3年で学校祭を経験、	
君たち128期生も同じ経験をしています。他	
には「3」の付く期しかできないこの得がた	
い経験は、君たちをきっと強く後押ししてく	
れます。Let us realize our dream!	